

## (単元) 第 2 章 2 節 農業と食料供給

## (本時のねらい)

「スマート農業」についての具体的な活用方法について理解を深めるとともに、期待される効果や将来の展望について意見することができる。

## (ICT 活用方法)

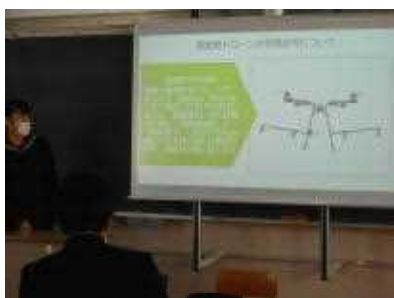
Web 上の映像やデータを効果的に活用することで、専門教科の内容を理解しやすく、学ぶ意欲を喚起する。

生徒自らが、検索情報をスライド等にまとめ報告を行うことにより、スマート農業に関する知識を効果的に得る。また、他者の報告と比較することにより、専門的な知識をより深く理解することにつなげる。

## (本時の展開)

時間	学習活動	指導事項	I C T 活用方法
導入 5 分	・ 本時の目標および学習内容を知る。	・ 林業出前授業で扱うドローン活用について説明し感心を持たせる。	・ 本時のねらいを電子黒板に投影する。
展開 3 5 分	・ スマート農業の必要性について理解する。 ・ スマート農業の実際について調査した結果をまとめ発表する。	・ 映像及び具体的資料を基に農林業の抱える問題と課題を理解させる。 ・ ICT や AI の導入が作業の効率化・省力化につながることを理解させる。	・ 映像から農林業の課題について、読み取らせる。 ・ 調査したスマート農業の導入事例をプレゼンし、共有させる。
まとめ 1 0 分	・ スマート農業の課題と展望について知る。	・ 農林業の新たな可能性について考えさせる。	・ 農林業の課題を解決するための多角的な取組動画を視聴する。

(生徒たちによる報告会)



・農業用ドローンについて



・アシストスーツについて



・友人の発表を視聴する

(生徒の反応と課題、改善を要する点)

事前に一人一台端末を使用した調べ学習により、「スマート農業」の活用事例についてまとめ、全員がプレゼンテーションソフトを利用した報告を実施することができた。農林業の課題解決に向けた具体的な「スマート農業」について理解を深めるとともに、将来の農業の発展をイメージし、自分の意見をまとめ発表することができた。

発表資料の見せ方や要点のまとめ方など、視聴側を考えた工夫が大切だと感じた生徒もあり、報告内容について深まりをもたせるためにも、生徒同士で詳しい説明を求めたり、指導者から意図的に働きかける必要がある。